

## 2010年度 私立大学図書館協会東地区部会 館長会 会議録

1. 日 時：2010年6月11日（金）12：10～13：20
2. 会 場：明星大学 本館7階701号室
3. テーマ：「大学図書館をどのように活用しているか、活用していくか」
4. 司 会：青山学院大学図書館長（東地区部会長校） 山本 吉宣

### 5. 議 事

#### (1) はじめに

司会の山本吉宣青山学院大学図書館長より、今回のテーマの趣旨説明と自己紹介があった。

#### (2) 意見交換

- ・ 創立100周年以上にもなると卒業生も多くなり、図書館利用の要望もあり、同窓生には学部生と同様のサービス（閲覧・貸出）を行っている。また地域への図書館開放なども今後の課題である。附属の高校生には高大連携として、事前教育の点からも図書館を位置づけ、きちんと勉強するモチベーションを持たせる目的で図書館を活用している。
- ・ オンラインジャーナルなど、来館しなくてもパソコンからアクセスできるので、図書館への足が遠のいているのが現状である。
- ・ アメリカでは図書館に来てもらうためにさまざまな工夫をしている。
- ・ 図書館はハイブリッド機関としてのコンセプトで展開していくという考えで、それに向かって管理、利用について充実を図っている。1年生に一般教養のような科目で情報リテラシー教育をした後、図書館を使ってどのような情報を手に入れ、それを利用することについてのガイダンスを図書館が引き受けている。
- ・ 電子媒体と紙媒体を両方同時に使って学習できる閲覧室を作る。
- ・ 図書館への入館数は問題ではない。学生一人に1台のコンピュータを教育用に貸与しているので、図書館に来なくてもどこからでもデータベースにアクセスできるようになっている。今はデータベースへのアクセス数がどのくらいあるかを物差しとしてみるべきである。
- ・ 図書の発注については「ISBD」により、図書館を通さなくても教員と業者の直接のやり取りでできるので、図書館の業務が軽減できる。
- ・ カウンター業務はほとんど委託や派遣が担っているので、図書館職員はその代わりに何を求めるかが求められている。昨年、全学共通カリキュラムの授業を図書館が提供した。企画からコーディネーター、ゲストスピーカーなどをすべて図書館職員が探して交渉した。その授業の中で、図書館の利用がいかに重要かを学生にも気づ

かせ、職員もプレゼンテーション能力が飛躍的に伸びたという効果があった。スキルを磨き、図書館のプロとして学生や教授にさまざまなアドバイスを行っていくという原点を大切にしていきたい。

- 大学院生の活用について、博士課程の学生を各学部から推薦してもらい、それぞれの学部の得意とする分野を担当してもらおう。
- さまざまなニーズに対応する閲覧席がある。自由に話が出来るところ、多少の話し合いができる場所、非常に静かな場所、そして個室のキャレルと段階をつけている。
- 電子ジャーナルの高騰を危惧している。必要ではないパッケージと抱き合わせで販売をしてくる。東地区の図書館がひとつの図書館として契約をするくらいの手段をとらないと購入できなくなる。今後対策を講じていただきたい。

以上